日本主義的学生思想運動資料集成

全2期

Ⅰ 雑誌篇 《国民文化研究会所蔵》『学生生活』『新指導者』［復刻版］

Ⅱ 書籍・パンフレット篇 《国民文化研究会所蔵》日本学生協会・精神科学研究所刊行物［復刻版］

日本主義的教養が必然的に戦時体制批判へと行き着くプロセスを明らかにし、昭和10年代の学生思想運動にまつわる通俗的イメージに再考を迫る日本学生協会・精神科学研究所の機関誌を復刻。大学史研究、昭和前期思想問題の空白を埋める基礎資料！

東大文化科学研究会の機関誌として一九三八年に創刊された月刊誌『学生生活』は、その後、発行所を全国学生組織の日本学生協会、さらには民間組織の精神科学研究所に移して誌名を『新指導者』と改称しながら、一九四三年までの足掛け六年間にわたり全五三号が刊行された。それはちょうど、国策的に「上からの日本主義」が浸透すると同時に、原理日本社など民間の「下からの日本主義」が衰退していく時期にあたる。

日本主義者の栄光と挫折のプロセス――本雑誌を主宰した精神科学研究所メンバーは、戦時体制を日本主義的教養の本義からの逸脱と捉えたがゆえに、同時代の左翼的反戦の論理以上に危険視され、「反戦反軍」言論の廉で一九四三年に検挙された――は、日本学生協会・精神科学研究所においてはどのようにあらわれたのか。その検証を可能にする詳細な活動記録を、日本学生協会・精神科学研究所の戦後における唯一の後継団体である社団法人・国民文化研究会所蔵本をもとに復刻する。

【本資料集の特長】

①社団法人国民文化研究会が所蔵する日本学生協会・精神科学研究所機関誌、および日本学生協会・精神科学研究所刊行物320点余りを復刻。欠号・不足分は関係者による資料提供により、可能な限り万全を期した。

②日本学生協会・精神科学研究所作成の主要な資料を通覧することで、戦時体制下に大きく変容した学生思想運動の実態が把握できる。

③資料不足を一因として先行研究が乏しかった日本主義的思想運動団体の研究に基礎資料を提供し、従来の通俗的なイメージの変容を迫る。

④資料の劣化等により判読が困難な重要資料は、翻刻を施した上で収録した。

⑤収録資料全点について専門家による的確かつ詳細な文献解題を付し、資料解読と今後の研究に有意義な視座を提供する。

⑥『学生生活』『新指導者』の総目次、関連年譜、人名索引など、利用者の便宜を図ったレファレンス機能も充実。

⑦附録として、昭和15年の思想運動の記録映画『文化の戦士』をDVDに収録、昭和16年から翌年まで日本学生協会が紙面提供を受けた日刊紙『日本太郎』をCDに収録した。

【解題】
井上義和（帝京大学総合教育センター准教授）
打越孝明（明治神宮国際神道文化研究所主任研究員）
占部賢志（中村学園大学教育学部教授）

【体裁】
A5判上製函入
第Ⅰ期　全9巻・総4464頁
第Ⅱ期　全10巻・総5240頁
附録DVD＋CD

【定価】　※各期とも分売不可
第Ⅰ期　定価（本体250,000円＋税）
ISBN978-4-7601-3209-6
第Ⅱ期　定価（本体285,000円＋税）
ISBN978-4-7601-3460-1

【おすすめします】
教育学・教育史
政治史
政治思想史
社会学
日本近代史
メディア史
大学図書館・公共図書館

取扱店

2016.9

柏書房

本資料集を推薦します（50音順・敬称略）

日本の戦時体制を真に理解するための好素材

福岡市博物館館長　有馬学

戦前日本の日本主義学生運動に食指を動かした研究者は、これまであまりいなかっただろう。しかし彼等は、時を得顔にのさばった権力の走狗などではない。彼等はいわゆる革新派と鋭く対抗しつつ、体制にも不満を蓄積する存在であった。近衛新体制推進派＝革新派だけを見ていたのでは、日本の戦時体制を本当に理解したことにはならない。本資料集成は、鋭い問題提起の書であった『日本主義的教養の時代』の提起を受け止め、先に進むためによるべき好素材である。

昭和史の正確な理解が深まることを期待

東京大学名誉教授　小堀桂一郎

同時代の歴史は約60年を経過した後でなければその真の姿は見えて来ないものだ、との説を最近よく耳にする。近い過去であるだけに、史実を公正に判断し評価するための史料が出揃ふのに、その位の歳月が必要なのだ、といふ意味で実にその通りだと思ふ。殊に我が国は昭和20年以後の数年間に全国的規模での史料の破壊・湮滅を経験してゐるからである。昭和の戦争期の歴史を、精神史の観点から正確に理解するために、この資料復元は甚だ重要な役割を果すであらうと期待される。

旧制高校・帝大生らの精神史の実態に迫る重要資料

大東文化大学東洋研究所特任准教授　谷本宗生

戦前日本の学生思想運動の実態に迫るうえで、東京帝大の小田村事件や新潟高校や水戸高校の生徒停学処分事件に関して、その詳細を取り上げた重要資料集がこのたび復刻刊行されるという。旧制高校・帝大生らの思想運動を十分に批判検証していくうえでも、参考となるべき資料集が大いに期待される。この資料集を活用することによって、旧制高校史・大学史研究が活発となり、〈旧制高校・帝大生らの精神史〉という新たな研究の広がりと深まりが生じるかもしれない。

戦前の学生運動全体が解明されることを期待

近畿大学教職教育部教授　冨岡勝

東大小田村事件で知られる小田村寅二郎は一高時代、生徒たちから寄宿寮の委員長に選ばれて駒場への移転問題で活躍しており、当時の一般生徒たちから必ずしも浮き上がった存在ではなかった可能性がある。今回の復刻によって、小田村らが編集した『学生生活』『新指導者』を通読すれば、当時の雰囲気がわかるかもしれない、学生の活動に関する資料がどんどん復刻されていくことで、「右翼」「左翼」を含めた戦前の学生運動全体の解明につながっていくことを心から期待したい。

昭和戦時下の学生運動研究を深める素材となる

日本大学文理学部教授　古川隆久

収録資料の行間に溢れる原理主義的熱意は、実際の参加人員が決して多くなかったにもかかわらず、当時の大学人、文部官僚、そして政治家が日本主義学生運動にいかに恐怖を抱いたかに思いを致させてくれる。昭和戦時下の日本主義学生運動研究の重要性はすでに井上義和著『日本主義と東京大学』が明らかにしてくれたところだが、研究を深める素材としての本資料集刊行の意義は大きい。

全巻構成

第Ⅰ期　雑誌篇

第一巻　解題／『学生生活』1938年10月号～1939年6月号
第二巻　『学生生活』1939年7月号～1940年3月号
第三巻　『学生生活』1940年4・5月号～1941年1・2月号
第四巻　『新指導者』1941年4月号～1941年8月号
第五巻　『新指導者』1941年9月号～1941年12月号
第六巻　『新指導者』1942年1月号～1942年4月号
第七巻　『新指導者』1942年5月号～1942年8月号
第八巻　『新指導者』1942年9月号～1942年12月号
第九巻　『新指導者』1943年1月号～1943年6月号／『思想界』1943年8月号／人名索引

第Ⅱ期　書籍・パンフレット篇

第一巻　〈小田村事件〉関係資料
第二巻　日本学生協会の設立と全国合同合宿
第三巻　学生生活叢書
第四巻　日本学生協会関係資料
第五巻　日本学生協会の支部活動（その一）――正大寮と東日本地区
第六巻　日本学生協会の支部活動（その二）――西日本地区
第七巻　精神科学研究所の事業（その一）――組織と事業
第八巻　精神科学研究所の事業（その二）――日本世界観大学
第九巻　精神科学研究所の事業（その三）――思想国策叢書
第十巻　解題および各種資料編
附　録　記録映画『文化の戦士』（DVD）／日刊紙『日本太郎』（CD）

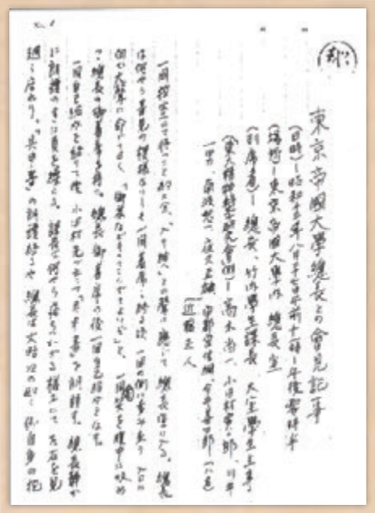
柏書房　〒113-0033　東京都文京区本郷2-15-13　Tel 03-3830-1891　Fax 03-3830-5337　URL http://www.kashiwashobo.co.jp　E-mail eigyo@kashiwashobo.co.jp

日本主義の可能性を極限まで追求した戦時期学生思想運動の到達点とは……

『学生生活』『新指導者』主な執筆者

阿部隆一、有馬成甫、井田磐楠、伊藤整、伊藤正徳、井上哲次郎、大串兎代夫、大槻憲二、尾崎士郎、小高根二郎、小田村四郎、小田村寅二郎、加納祐五、亀井勝一郎、北昤吉、久保田万太郎、倉田百三、桑原曉一、小林秀雄、末次信正、副島羊吉郎、高木尚一、田所廣泰、檀一雄、津久井達雄、十返一、戸田義雄、中河與一、中谷孝雄、長谷川伸、林房雄、久松潜一、廣瀬哲士、福士幸次郎、房内幸成、藤澤親雄、穂積七郎、堀口九萬一、松田福松、水野正次、三井甲之、三潴信吾、緑川貢、蓑田胸喜、室伏高信、夜久正雄、保田與重郎、山本勝市……

一斉検挙直前の臨場感溢れる手書きの議事録「昭和十八年一月廿日(水)第一回所員会議」『思想戦戦闘概要』(精神科学研究所、1941年)



「東京帝国大学総長との会見記事」(東大精神科学研究会、1938年8月27日)

『思想戦戦闘概要』(精神科学研究所、1941年)

日本学生協会発足時の文部省の対応が窺える田所廣泰の書簡(1940年6月2日)

『学生生活』創刊号表紙　1939年10月

「東西両班巡歴図」

「全国学生歴訪同信世界開展記」(『学生生活』1939年8月)

小林秀雄「歴史の魂」(『新指導者』1942年7月)

亀井勝一郎「日本精神の将来」(『新指導者』1942年8月)

『新指導者』表紙(1941年5月)

日刊紙「日本太郎」を附録CDに収録。

思想国策叢書『革新思想と革命思想』(精神科学研究所、1942年)

日本学生協会予算概算書

大学史、教育史、昭和思想史の再検証を迫る基礎資料